

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.139

2011/06/10

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

学ぶこと多かった第3回山門水源の森生態系保全シンポジウム



21日観察会開会式で(嘉田知事・藤井市長を囲んで)

Photo by H.ITO



Photo by KAWASAKI



Photo by H.ITO

5月21・22日滋賀県・長浜市・山門水源の森連絡会共催・林野庁滋賀森林管理所をはじめ多くの団体の後援をして貰った第3回「山門水源の森」生態系保全シンポジウムは、209名(1日目101名・2日目108名)の参加を得て無事終了しました。21日の自然観察会開会式には、嘉田滋賀県知事・藤井長浜市長も駆けつけて頂き共催者として挨拶をしてもらいました。また僅かの時間でしたが、両氏と会員との和やかなやり取りが出来たことも収穫でした。

開会式後ブナの森コース(津原・田中 S:10名)・(橋本・田中 T:11名) 四季の森コース(藤本 K・藤澤:9名)・湿原コース(伊藤・村田:14名)・保全活動コース(藤本 H・辻本:13名)(浅井・藤本 A:

9名)番外コース(泉:5名)のコースに分かれ観察会を行った。保全活動コースには、講師の横山・挾土氏も同行して貰った。

夕刻6時からつづらお荘にて10周年記念パーティーが催され、西浅井支所長轟氏・山門自治会長橋本氏・西浅井総合サービス社長熊谷氏・国際ソロプチミスト長浜の平山会長以下3名と一般参加のみなさんでこれまでの10年とこれからを語り合いました。



観察コースの班分け

Photo by A.Fujimoto



Photo by H.ITO



Photo by A.Fujimoto



Photo by H.ITO

10周年記念パーティー



竹端会長の挨拶

知事代理
湖北森林整備事務所長川道氏の挨拶市長代理
西浅井支所長轟氏の挨拶

22 日長浜市西浅井文化ホールでシンポジウムが開催された。竹端会長の挨拶に引き続き、滋賀県知事代理の川道氏より知事のメッセージが、市長代理の轟氏より市長のメッセージが披露された。引き続きこれまでの本会の活動にご支援を頂いた「山門老人会」「淡海森林クラブ」「長浜北ローターリークラブ」「木之本ライオンズクラブ」(欠席)「国際ソロプチミスト長浜」の 5 団体に、竹端会長から感謝状が手渡された。長期にわたるご支援誠にありがとうございました。



山門老人会山下会長



淡海森林クラブ副会長宇佐見氏



長浜北ローターリークラブ会長右近氏

国際ソロプチミスト長浜
会長平山氏

式典後「山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会-10 年間の歩みの成果と課題-」と題して、本会発足時から



今日まで、私たちが行ってきた保全活動の内容と、その中で得られた成果を報告した。つづいて「岐阜県・乗鞍山麓五色ヶ原の保全と利活用」と題して高山市丹生川地域振興課長の挾土氏に基調講演をお願いした。「五色ヶ原」は、山門水源の森とは異なり原生林であり、出来る限り人の手を入れない(原生林の保全・自然に負荷をかけない)で利用するための工夫を中心に話された。最後に日本自然保護協会常任理事の横山氏が「日本各地の保全活動の実態とこれからの保全活動」ということで、①「自然の劣化の状況」②「生物多様性条約と、多様性保全国家戦略」③「日本各地の市民活動とこれからの活動」について話され、特に参加者に強い印象を与えたのは「Bセンスを持つ人になる」ということと、「調査、モニタリング活動を続け、自然の応答を見て活動する」ということについてであった。

午後の討論会 この討論会で最も白熱した議論になったのは、



五色ヶ原の取り組みでした。「本物による整備」「自然に対する遠慮」「元手を食いつぶさないで、利子で生き延びる方法」を基本コンセプトとしている。このことは横山氏話にも共通したものである。行政主導で始まったものの、現在では指定管理に移され運営されている経過についての質問が多く出されました。本会のそもそものシンポジウムの目的は、会員自身が儲かる(お金ではなく)ものにしたいというものでした。かなり儲かったのではないかと思います。(この頁の写真は全て伊藤氏撮影)



シンポジウムまで

10周年記念事業として記念誌の刊行とシンポジウムの開催が決まったのは昨年のことであった。過去2回（ミニシンポジウムを含めると3回）は、基調講演後は分科会方式で行った。この形式にすると会員が分科会の裏方の仕事ばかりに振り回され聞き手に回れないという反省から1会場での討論会方式をとることになった。そうとはいえ本番が近づくと、その準備に会員のみなさん四方八方に走り回ってもらうことと成りました。お疲れ様でした。（今回撮影した全ての画像は楽舎に保管されています。必要な方はコピーして下さい）



臨時駐車場の草刈り



駐車場のライン引き

Photo by K.HSHIMOTO



目印の旗設置

Photo by T.FUJISAWA

2011/06/24 17:08



会場案内板の設置



記念誌の帯付け作業



会場告知ポスター貼り付け

Photo by H.ITO



Photo by H.ITO

当日の受け入れのためのミーティング



左から講師の
横山氏・挾土氏・
嘉田知事・藤井市長

Photo by H.ITO



観覧会受付

Photo by H.ITO

本
番
の
裏
で
・
・



販売コーナー

Photo by H.ITO



Photo by H.ITO

シンポジウム会場のパネル展示



シンポジウム受付

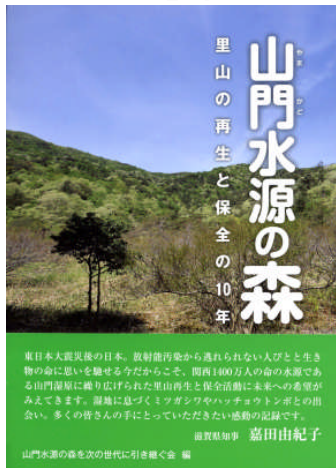
Photo by H.ITO



観覧会受付会場

Photo by H.ITO

10 周年記念もう一つの大仕事



10 周年記念誌 好評発売中！

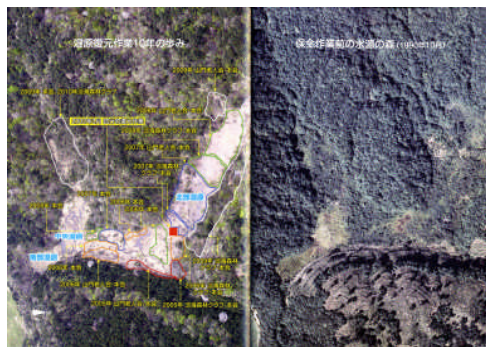
A5判 230 ページ オールカラー
価格 1,995 円 (本体 1,900 円+税)

待望の 10 周年記念誌ができあがり、販売を開始しました。編集委員のみなさんの努力のおかげで、よい仕上がりになりました。入荷した当日、森の楽舎で帯つけ作業をしている傍から、観察に訪れた人を買っていただけるなど、まずまずのスタートとなりました。約 400 枚にもなるカラー写真による、臨場感あふれる誌面を通じて「生物多様性の保全」の裏側にある活動の苦悩や楽しさを感じとっていただきたいと思います。

第一部では多くの方々にこの森の素晴らしさを綴っていただいています。また、第二部では活動の歴史や再生・保全の手法などを詳細に記述しています。私たちと同様の活動に取り組んでおられるグル



美しいカラー写真で



再生・保全活動の推移も明瞭に

ープや団体の皆様の参考になればと願っています。会員のみなさんにとっても、どんな活動が継続されてきたのかを知るよい資料です。本書の執筆者の一人でもあり、編集のプロでもある日本自然保護協会編集部の渡邊さんから以下のような感想をいただいております。『写真が多く、余白もしっかりとれている。全体の字数も多すぎず、読みやすい字の大きさ、1本1本の原稿も一気に読んでいける長さ、と読む側の読みやすさを追求されていると思いました。他の編集部員も、「記念誌のイメージと全く違う！写真が多くて、すごくいいね」と口をそろえています。構成も、山門水源の森の魅力をいろんな方が紹介する形で、森がいかに魅力的で、そして多くの人に愛されているか、とてもよく伝わってきます。保全に関する第二部についても、文字が多くなりがちになるところ、きれいなレイアウトを保ちつつ、しっかりと保全の経緯、意義・意味を伝えきっている内容となっているので、驚かされました。』本書は一般書店にも並びますが、基本は本会の自費出版です。会員の皆さんにぜひご購読いただき、この森の豊かさがどのようにして再生され、保たれているのかを知っていただきたいと思います。また、思いを同じくする仲間の方々にぜひおすすめしていただきたいと思います。本書は他のガイドブックなどと同様に、通信販売も致します。ホームページからお申し込みください。(文責 伊藤博)

今の森の様子

・今年は開花が遅れそうですが、今年もササユリの食害防止のため、例年の同じ範囲に約 300 個の金網設置を行いました。しかし、鹿も学習するのか設置後も草丈と金網の高さ・大きさが適合していないと、頭を突っ込んで喰います。知恵比べが続きそうです。開花の最適期は、HP の「最新情報」で確かめて下さい。



シカの救出作戦(11/04/14)

・南部湿原のミツガシワ群落の再生(シカの食害により衰退)を謀るため南部湿原の周囲に網を設置しましたが、これまでに 2 回シカがかかりました(4 月 14 日と 5 月 22 日)。14 日は丁度保全活動日であったため、全員で絡まった網を取り放すことが出来ました。22 日の個体は、そのことを知ったのが夜で翌日レンジャーの橋本氏が行った時には死んでいました。翌 23 日死体を別の場所に移し風葬状態にし、固定カメラでその後を追跡しました。タヌキ・キツネ・テンが喰い、5 月 31 日段階では、頭骨と肋骨の一部・足のみが残っているという状態にまでなりました。自然の摂理に改めて感じ入っています。別の角度から見ると網はミツガシワの保全には役立っているということになります。

・昨秋の砂防作業の効果があって、最近まで湿原への土砂流入が止まっていたましたが、台風崩れの温低の降雨で、沈砂池が満砂になり浚渫を行いました。続いて上流部の砂防作業を行います。



首の跡



満砂状態の沈砂池の浚渫(11/05/31)